

個人カルテ

域内の小中学校では、もうすぐ15日間の冬休みを迎えます。子供たちは、長い冬休みをどのように過ごそうかと考えている真っ最中だと思います。

さて、11月26日（火）に開催された第2回県学力向上対策会議の中で、いわき市の実践事例が紹介されました。「いわき市教育委員会では、『学力に関する調査について、（学校・学級ごとに実態が違うので）市全体で語ってもあまり意味がない』という認識に至り、『学校カルテ（学校・学級ごとの分析資料）』の作成を目指した」という内容でした。

南会津域内においても、授業実践の充実に向けて、各校で全国学力学習状況調査やふくしま学力調査の結果分析に取り組まれたものと思います。南会津教育事務所でも、域内すべての小中学校の調査結果を確認し、解答や児童生徒の生活習慣の傾向を分析しました。

ふくしま学力調査については、学力を大きく伸ばし、なおかつ県平均を上回ったクラスが、域内には対象59（小4～中2）クラスの中に12クラスありました。これらのクラスは、児童生徒質問紙の下記の項目について、肯定的回答の割合が高いことが分かりました。

- 学級は落ち着いて学習する様子である。
- 学習の準備を整え、授業に臨むことができている。
- 先生や友達の発表をしっかりと聞き、発表することができている。
- 話し合いや交流によって、考えをしっかりと持てるようになった。
- 話し合いや集めた資料から、考え方が変わったり深まったりした。
- 先生は、分かるまで教えてくれる。
- 家庭での1日あたりのインターネット使用量が2時間以内。
- 月に3冊以上読書をしている。
- 休日の家庭での1日当たりの学習量が1時間以上。



なお、ふくしま学力調査について、「安全・安心な学級風土づくり」によって学力を高めた域内の小中学校の取組等が掲載された事例集（県教委作成）を後日お届けしますので、ぜひ3学期や次年度の実践にお役立てください。

さらに、個人に焦点を当てて域内の児童生徒質問紙を分析していくと、正答率の高い子は、授業に関して下記の傾向にあることが分かりました。

- 「ノートに書く」「声に出す」などの作業を確実にやっている。
- 計画的に学習に取り組んでいる。
- 自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更している。
- （好き嫌い等の）感情をコントロールして学習意欲を高めている。



